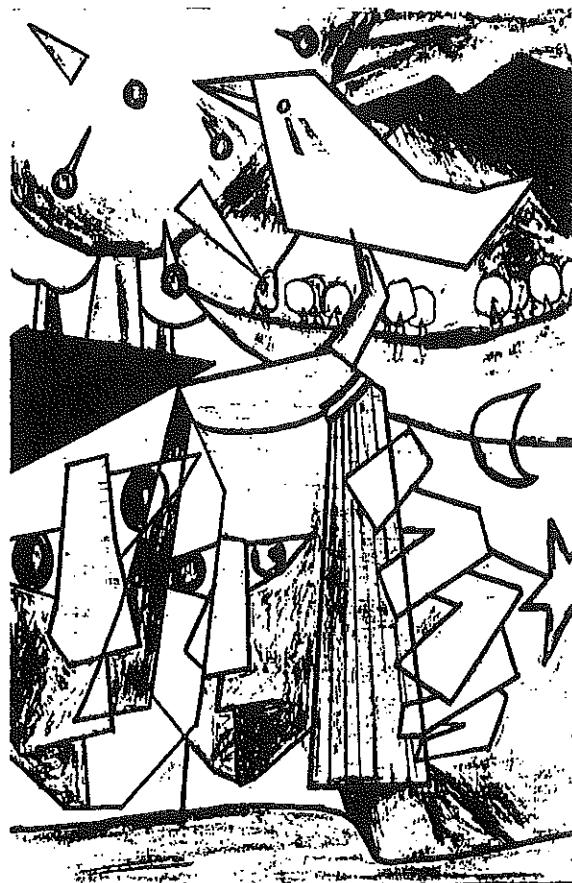


解放へと道く力を育むために

—「差別と出会ったとき、あなたならどうしますか」アンケート調査結果より—



部落解放同盟奈良県連合会



〈はじめに〉

1969年に同和対策事業特別措置法が制定されてからすでに28年が経過しました。この間、わが国の高度経済成長を背景に、様々な分野における特別対策としての「同和」対策事業も効果して部落内外の生活実態面における格差は著しく縮小してきたのは確かな事実であります。しかし、あに図らんや、部落への差別意識は克服できていません。あろうことか、利権主義がのさばり、「法」依存の風潮が部落民の主体性を喪失させ、部落内のしんどい立場にある人々が“冷たい人間関係”の中で放置されるようになってきました。

部落と運動のありのままの現実を見ていける英知と勇気、そして、この現実を変革していくための大胆な発想の転換が私たちに要求されています。そのポイントは四点です。第一点は、「被害者意識」や「被差別の立場」から私たち部落民が自由になり、「解放の立場」からの発想を大切にしていくことであり、第二点は、「法」依存主義を克服すること、第三点は、「部落差別はあってはならないもの」とする前提でなく、むしろ、「部落差別があってもしかたがない」とするところから出発し、単なる「本音と建前」の投げ合いのとり組みから脱皮すること、そして第四点は、徹底して自主解放の精神を大切にすることでした。

まず、これまで私たちがすすめてきた「同和」教育や「同和」啓発の基本パターンに疑いをもって省みなければなりません。

〈基本パターン〉

“差別はいかなる理由をもってしても絶対に正当化されない最大の社会悪であり、人間の尊厳を犯す犯罪である”と規定する。



「差別しない」「差別させない」ことを目的とする。



「正しい認識」をくりかえし注入する。

この基本パターンから何が生まれたのでしょうか。「二度と軽率な言動をするまい」「部落問題はできるだけ避けて生きよう」という傾向だけだったと言えば言いすぎになるのでしょうか。加えて、これまでの「正しい認識」の根幹を形成してきた部落史観が根底から変更を余儀なくされ、いわゆる「貧困史観」は全面的に崩壊しようとしています。

また、柴谷篤弘氏が次のような指摘をしています。“個人が差別を身につけないで育つことは、ほとんど不可能であろう。ただ一つの救いは個々人の人間は（動物とちがって）その正確な内容は未決だとしても、ある種の倫理的な意識を身につける能力を生理的にもっていることである。だから通常、人は歯止めなく差別に徹しきることは困難で、むしろ社会的になされる戦いに参加

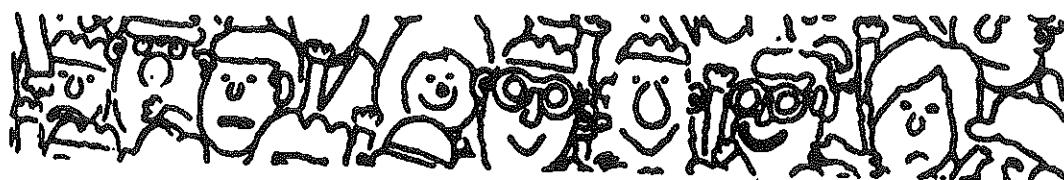
し、あるいは孤独な個人の戦いとしてもこれを発展させる能力をもつのが普通である”というものです。要約すれば、部落民であれ、誰であれ、差別という間違いを犯す可能性をもっている。と同時に、他者との共同のとりくみや個人的なとりくみを通してその差別意識を克服し、自らを解放に導く能力を潜在的にもっているということではないでしょうか。

私たちの身のまわりには様々に差別が存在しています。これまでの部落解放運動や「同和」教育は、たかだか、「差別だ」「二度とするな」と指摘するだけで具体的な行動につながる技術や技能（スキル）を育てるという面で大きな欠陥がありました。運動体や行政に「おまかせ」では自らの差別意識を克服し自らを解放へ導く主体的な力は育ちません。昨今、私たちが人権教育の手法をてらいなく受け入れ、学ぼうとする基本的な態度はここからでてきてています。

過去数年間、自治研センターの吉田智弥氏から機会あるごとに示唆に富んだ具体的な提起をくり返しいただいてきました。

- ・「自分が部落出身であることを知った」のは小学校卒業までに→90%
- ・「家族」「親類」「ムラの人」「先生」から知らされた→86%
- ・その時、部落差別それ自体の意味を理解できなかった→88.6%

この’87「部落出身高校生意識調査」の分析の中で、部落の子どもたちにとって「味方」である人たちから「部落」を知られ、「何も思わなかつた」「何を意味するのか分からなかつた」等々、「判断停止」「理解不能」のものが89%に達する事態を“この数字は無惨である”と吉田氏は論断されたのであります。加えて、差別を受けて、何らかの反発、抵抗の態度を示したものが三割にも満たない現実を見て、「反発できなかつた」場合の理由や条件を解放運動の観点から検討し、現実的に可能な対応策を提示しなければとの指摘がありました。運動体の実践は常に愚鈍な側面をもちます。遅ればせながら、県連各支部の活動家のアンケートを基に「差別と出合ったとき、あなたならどうしますか」の討論の入り口を設定し、流れを創ろうとの試みです。気楽に参加し、様々な角度から問答の面白さがでてくれれば成功だと考えています。



I 相手があなたを部落民と知って差別するケース

(A) 結婚に反対する親や兄弟・姉妹、親せきの人々への抗議または説得の言葉は

総務庁地域改善対策室（地対室）の'93年同和地区実態把握等調査によれば、部落民の33.2%のものが「人権侵害有」と回答し、人権侵害の内容別回答では、「結婚」が24.2%で最も多くなっています。いまもむかしも結婚が最大の障壁であることに違いはないようです。このアンケートでもまず最初に結婚をめぐる反対とそれに対峙する部落民の側の抗議なり説得なりの状況から検討を始めることとしました。

(1) 親せきの反対は、ほとんど無視。反対する兄弟・姉妹はオルグ対象

親せきへ

A-1

- ◎結婚は2人の一生のこと。親せきが口をはさむべきでない。
- ◎自分も差別されるの恐いんか。
- ◎部落に親せきができるのがそんなに悪いことか。
- ◎だまって縁を切る。
- ◎いずれの日にか理解してもらえると思う。
- ◎結婚してなにか問題おこったら離婚する。

(ほとんど「親」「きょうだい」と同じ)

兄弟・姉妹へ

A-2

- ◎もし、あなたたちが反対の立場であつたらどう考え、どうしますか？自分と相手と互いに幸せになればそれ以上望むことはないと思います。今までの考え方をぜひ直してほしいと思います。
- ◎好きな人と一緒になんのが一番ベストだから兄弟やつたら応援してくれ。
- ◎一応、オルグする。「それはまちがつた考え方や」
- ◎一緒になる2人をはげましてやって。
- ◎あんたらには好きな人いいひんのんか。
- ◎あなた方も好きになった人が部落民だとどうしますか。
- ◎話を聞いて下さい。
- ◎兄弟なのに気持ちがわからないのか。

- ◎愛には差別はない。皆で見守ってやるべき。
- ◎今後も仲良くして下さい。（迷惑でなければ）
- ◎本人したいやから、おうえんしてやって。あんたと、どこの子と一緒になるかわからへんやろ。
- ◎同じ人間であるということを訴え、なぜ結婚したいのかを話し、応援してほしいとお願ひする。
- ◎好きおうた仲をさくようなこと自分されたらどうや？どう思う。
- ◎反差別人間解放運動をすすめる。

ほとんどの回答の基本的な流れは、親・きょうだい・親せき共々に同じであります。しかしその中にあって〈A-1〉にあるように、親せきの反対に対する無視しても構わないという特徴がでていました。核家族化や少子化という時代を反映しているのでしょうか。また、〈A-2〉に明らかなように兄弟・姉妹に対する対応が面白い。親や親せきと違って年齢も接近しているせいか、積極的にオルグの対象としているのです。「もし、あんたが反対の立場やつたらどうしますか」「好き合った仲をひきさくようなことを自分がされたらどう思うか」と同じ目線からの訴えはそれなりに説得力を持つのではないかと思います。

（2）根拠の曖昧な反対に激しい憤りは当然。しかし、なお求められる試練とは

地対室の'93調査で、「結婚相手を決めるとき、家柄とか、血筋を問題にする風習」について問い合わせたところがありました。部落の側の回答は、「当然のことと思う」5.7%、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がない」17.3%であるのに部落外の人々のそれは、各々、14.0%、31.0%でありました。自分の身内が部落のひとと結婚するのに反対と異議申し立てをする部落外の人々の意識もこれと同様のものではないかと推察できるのではないでしょうか。すなわち、反対に確たる根拠があるわけではないのです。周りの人々のほとんどが部落民との結婚を忌避しているから自分もそうするというにすぎないのです。

親へ

A-3

- ◎部落がいらんのやつたらこっちも結構や
- ◎明日からあんたらとは他人だ。
- ◎何ゆうてんや。部落やから結婚できへんのか。俺何やつたといんや。
- ◎同じ人間なのに、なぜ反対するのか。
- ◎お前らとどう違うんぞ！
- ◎そんなこという親とは思わんかったと返す。
- ◎部落やからと言って反対するのは差別です。

- ◎2人の問題なのだから放っておいてください。
- ◎「なんで反対するのか知りませんが」と、とぼけてから「当人同士の問題だから」と言って去る。
- ◎あんたに何か悪いことしたか。反対する理由はない、人間性を見よ。
- ◎子どもの気持ちを大事にできへんのんか。

A—4

- ◎何故「部落」ということだけでダメなのか。子どもの幸せを考えた時、どうなのかを考えてもらう。
- ◎あなたの息子さんは部落民であるこの私を好きになってくれました。息子の幸せを願う親なら何もいわずに祝福してくれるはずです。
- ◎俺が好きになった人やったら、どんな人でもええやんけ。
- ◎あんた子どもかわいいないんか、好きおうてんのに。
- ◎好きな人と結婚した方が幸せ。別の人と結婚して別れるよりましやろ。

兄弟・姉妹へ

A—5

- ◎部落がいらんのやったらこっちも結構や
- ◎「もっと勉強せえ！」
- ◎あなたたちに私たちの人生を選択してほしくない。
- ◎わが道を行け。
- ◎同じ人間であり関係ない。
- ◎同じ人間や、好き好んで部落に生まれたんとちやう。
- ◎2人の問題なのだから放っておいてください。
- ◎ほっとけえ～。
- ◎何、言うんや！本人同士、好きおうてんや！
- ◎自分と結婚相手の問題や！関係ないやろ。
- ◎お前らそんなやつやったんか。
- ◎同じ人間なのになぜ反対するのか。
- ◎文句を言う。
- ◎部落民でも気持ちは純情や。
- ◎結婚します。
- ◎説得できない。

部落の側の当事者が、「俺が何をやったというんや」「お前らとどう違うんぞ！」と突きつける抗議の刃は極めて人間らしい行為であると思います。「あんたたちに二人の人生を選択してほしくない」という投げかけもカッコがイイ。「部落がいらんのやったらこっちも結構や」「黙つ

て縁きる」というタンカの一つもきつてみたいところであり拍手を送りたいところではないでしょうか。しかし、この潔い態度のとりかたからは「ケンカ別れ」の結果しか期待できないという不安があります。あえて、親やきょうだいの意にさからってまで部落の人を伴侶に選択しようとしているパートナーの苦悩にも付き合ってやらねば、何が恋だ、何が愛だということにならないでしょうか。「あなたと一緒にになりたい。親やきょうだいとの関係も断ちたくない」というパートナーの思いを共有していくための試練にたちむかう必要があるでしょう。

(3) 被差別側の渦中にわが子を入れたくない。この肉親の思いは「偏見」か

前に述べたように部落の人との結婚を忌避するのは、唯々、周りの人々がそうするから自分もするのであって、忌避する根拠など定かではありません。部落の人との婚姻を避けることが常態化している社会の中で、わが子やきょうだいがあえて部落の輪の中に参入することを心配していることの率直な態度の表現が「反対」ということであれば、それは「偏見」とよりも「エゴイズム」と言った方が的を得ているのではないでしょうか。“赤信号、みんなで渡ればこわくない”の類の日和見主義的な選択とも言えるものです。

親へ

A—6

- ◎結婚を反対する理由はなんですか？あなた方は単なる偏見によって誤解しているだけです。部落差別は社会の中で封建的にできたもので、部落というだけで差別する理由はないと思います。私はあなた方を説得し、納得してもらうまで毎日、訪れます。
- ◎もし、あなたたちが反対の立場であつたらどう考え、どうしますか？自分と相手と互いに 幸せになればそれ以上望むことはないと思います。今までの考え方をぜひ直してほしいと思います。
- ◎部落であろうとなかろうと、本人（人間性）が大事。偏見ではないですか。
- ◎「部落とそれ以外と何が違うのか」徹底的に追及する。
- ◎結婚というのは本人どおしのことで、家柄とかは関係はないのではと言ってしまうかもしれない。
- ◎市民的権利と自由が平等であることを説明する。
- ◎2人の幸せを部落民だといって反対する権利はだれにもない。
- ◎大事なのは、本人の気持ちだ！部落であることをわかっていっしょになる気持ちを大事にすべき。
- ◎聞いた部落民と見た部落民をくらべて見てください。
- ◎同じ人間や、好き好んで部落に生まれたんとちやう。
- ◎部落民でも気持ちは純情や。
- ◎同じ人間としてどこが違うのか、差別するのは我々の年代で終わりにしましょう。

「あなた方は偏見によって誤解しているだけです」「部落差別は社会の中で封建的に……」「結

婚と家柄は関係ないのでは……」「市民的権利と自由が平等に保障されるべきでは……」等々が、親やきょうだいの「反対」に対峙するものとして最も多くだされている声です。簡潔にまとめれば、部落差別問題への正しい知識や認識が不足しているために部落（部落民）への偏見を克服できず、自分の身内のものと部落の人との結婚に「反対」するのだという論法であります。

しかし、現実には「反対」者を説得できてこなかったのではないでしょうか。昨今、部落史の見直しがすすみ、「貧困史観」なるものが見捨てられる日も遠くないと言われ、これまで疑われることの少なかった部落問題に関わる「正しい認識」があやふやになってきたからだけではありません。偏見に基づく「反対」というよりはエゴイズムや日和見主義に依拠した「反対」という色彩が濃いのでは、ということになれば、これまでみてきたような対応では相手の気持ちと噛み合わないということになってしまいます。

(4) 常態化している曖昧な差別的潮流の中で、当事者らの不安をやわらげていくために

「正しい知識・認識」の注入で偏見を克服していく、とするこれまでの「同和」教育や「同和」啓発の基本的な流れに疑問が生じています。この深刻な事態に、運動体はもち論のこと、教育や行政関係者もさほどの関心も払っていないようです。常態化しているこの曖昧な差別的潮流の渦の中に投げ出された当事者だけがもがき苦しんでいるのであります。

“われわれにとって部落解放とは、招来せられるべき状態でもなければ、現実が指向すべき理想でもない。われわれにとってそれは、現実を廃絶しようとする現実の運動である”（柴谷篤弘氏）という言葉をここでも引用し紹介したいのです。もがき、苦しむ現実の格闘の中から確かな進路が見えてくるものと確信しているからです。

親へ

A-7

- ◎親や兄弟姉妹親戚等々と結婚することではない。自分たち2人がお互いの人格を認めあった上での結婚ということから説得していく。
- ◎2人でいっしょにけんめい生活し、幸せになることを誓い説得する。
- ◎一緒にあってから2人で少しずつ分かってもらう。
- ◎自分たちの一生を見ていて下さい。
- ◎部落民である前に個人として評価してほしい。部落と結婚するのではなく、私と結婚するのに、他人のことばかり気にするんですね。あなた方と結婚するのではありません。
- ◎おれをみてくれ。
- ◎自分の信念で行動するから許して下さい。
- ◎結婚します。（理由をきちんと聞いた上で）
- ◎おたがいがひつようとしています。

◎なぜ、部落民だと結婚できないのか、その理由を言ってほしい。それに対して（理由に対して）筋が通っていてもいなくても同じ人間であるという事を訴える。

「反対」しているものは、部落民との婚姻を忌避することが常態化している社会の中で生きてきたものとして、身内がその忌避の対象となる部落の一員になることが心配なのであります。だから部落差別のなんたるかを口を酸っぱくして説明しても心に届きません。この心配と不安に真正面から対峙していくしか手はないのではないでしょうか。〈A-7〉群にその可能性がみてとれるのではないかと期待するところであります。

- ・お互いいにいかに愛し、思いやり、尊敬しあっているか。
- ・お互いいにどんな人格や個性を評価しているのか。
- ・二人してめざす家族観。
- ・将来、仕事や社会活動でめざしていく方向について。
- ・「少子・高齢化社会」についての二人の決意や願いについて。



そもそも親の側からは子どもの将来についての心配の種は山ほどあるものです。部落差別問題もかなりの心配ごとではあるが本当のところ、それほどでもないかもしれません。二人して当事者たちが、どんなに努力をして、どんなに楽しく、どんなにすばらしい未来をきりひらこうとしているのかについて語り合うことではないでしょうか。二人の人生にかける熱い思いと地に足ついた計画だけが「反対」している人たちを説得できる力を持つのだとの提起について大いに論議してもらいたいところであります。

〔B〕 友人の家に遊びにいったとき、友人の親から「もう、つき合わないで下さい」といわれたときに返すことばは

(1) 部落の子どもが最初に体験する被差別体験

’87年の「部落出身高校生意識調査」や’90年の「同和地区青年・中堅層の生活意識調査」でも明かなように、小学校から中学校の段階での部落民側の被差別体験で最も多く派生するケースであります。とりわけ、思春期をむかえての部落外の親の介入が目立つのは、やはり、恋愛・結婚を意識したことでしょうか。

いづれにしても、部落の子どもらのショックはかなりのものであります。友人の親から、唐突

に、想像だにしなかった対応を浴びせかけられ、多くの場合、「頭まっしろ」という思考停止に陥ってしまうというのです。

B—1

- ◎分かりました。もうつき合いません。あんたのような親の子どもなら長くつき合ってもたいした友人にもならないと思いますからと言う。
- ◎べつに悪いことしたんでないのに、来なっていってもらうことない。もう、つき合いやめるわ。
- ◎ハイ！わかりま。差別をする様な人々とはこちらからお付き合いをおことわり致します。
- ◎そうですか、こっちもいらんわ。
- ◎お前とつき合ってんとちゃうやろ。
- ◎そんな友人の親なら行かない。
- ◎差別が原因ならあなたは差別者と糾弾して縁を切る。

〈B—1〉に列記されている対応の中で、即時に返せる言葉は、「ハイ、わかりました」が精一杯ではないでしょうか。「あんたのような親の子どもなら長くつき合ってもたいした友人にもならないと思いますから」とか「差別する様な人々とはこちらからお付き合いをお断り致します」などの対応は、決して即時対応の中でた言葉ではなく、現場を立ち去る道すがらにひとり言としてつぶやきながら自ら慰めるために付け加えられるセリフだとしか思えません。

(2) 差別の現実から逃避せず真正面からの葛藤を

〈B—1〉群の展開で終始してきた場合が多かったのではないでしょうか。運動体が差別事件として関わったケースでもあります。しかし、ここで当事者が主役の座からおりてしまって事態の推移を運動体まかせや行政まかせになったとき、当事者であった部落の子どもが変革し、強く、賢く成長していく道は封じられてしまうのではないかでしょうか。また、「そうですか。こっちもいらんわ」では、「別れ」を仕掛けてきた部落外の親たちの側の一方的勝利であり、曖昧模糊として、しかも、常態化している部落民忌避の風潮を生きながらえさせるだけです。

B—2

- ◎何故つきあってはいけないのか？本人の意志はあなたの意志ではありません。子どもを人間として扱っあげて下さい。あなたのロボットではありません。本人はどういっているのか？どう思っているのかが重要で、あなたの意志はあなただけの意見です。
- ◎なんでつき合ってはいけないのか。私が部落の人間だからですか。
- ◎「なんですか」と問い合わせる。親が口実にする理由に一つひとつ反論する。
- ◎あんたも子をもつ親やろ。自分の子がこんな事言われたらどう思うねん。

- ◎何故、つきあってはいけないのかの理由をただす。そして、その人自身の人権についての考え方を問い合わせてみる。
- ◎何か迷惑かけましたか、と聞く。

B—3

- ◎あなたに言う権利はありません。本人の意志です。
- ◎私と友達がつきあうのかつきあわないのかは、私と友達が決める事。あなたは、あなたの子どもを差別者にするつもりですか。
- ◎なぜつき合ってはいけないのか理由を聞く。大人がそんな風に差別するから子どもは理由もわからないまま差別をするんだということを話す。
- ◎私も友人も気が合って交友しているのであって、あなたに言われるすじあいはなく、何の迷惑もかけていないでしょう。
- ◎なぜつき合ったらあかんのや、そんなこと言ったら友達できなくなるで。誰ともつき合っていけへんで。
- ◎本人に「付き合うな」って言われてへんからこれからも付き合う。

差別の現実から逃避する道は簡単なようで簡単なことではありません。一つ一つの現実（差別攻撃）から体をかわせても、肝心の部落差別を払拭し解放の手ごたえを得る道を閉ざしてしまうからであります。面倒がらずに差別と真正面からむき合うことが大切ではないでしょうか。〈B—2〉群で示されているように「なぜつき合ってはいけないのか」と食いさがることであり、〈B—3〉のようにしっかりと自分の意見を言うことです。「もう、うちの子どもとつき合わないでほしい」という親の側には理のカケラもないことを知ってほしいのです。みんなで知恵を出し合い、理不尽な親との討論を楽しむぐらいの余裕があつてもいいのではないかと思うのです。

このやりとりの極めつけは、「なぜ、つき合ったらあかんのや、そんなこと言っていたらあなたの子どもは友だちができなくなるで。誰ともつき合って行けへんで」にあるでしょう。そして惜しくも欠落しているところは、親友相互が意見を交換して、共々に親と対峙していく視点だけであります。

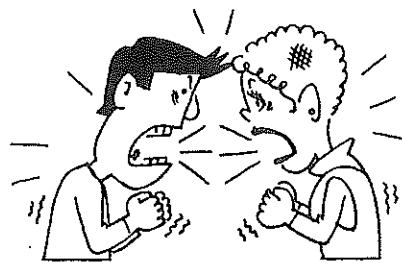
[C] 口喧嘩などのときに相手が「だまれ！エッタ」とか「同和のクセに」とか発言したときの対応は

(1) 憤怒～この余りに鋭敏で人間らしい感性にどんな着地の選択があるのか

わが奈良県では、今日、ほとんど実例がないのではと思ってきた対応です。しかし、'90年の「青年・中堅層生活意識調査」の被差別体験の報告に複数の告発があったのには驚かされたものです。

〈C-1〉群のほとんどの意見は的を得ているものと支持されるべきものであります。ここで言葉少なくも表現されている感性は、極めて人間らしい営みであるとして容認してもらいたいものです。

「だからコワイと言われる」などの自己規制は何の意味をもつものではないでしょう。この類の人間だけはオルグ対象にしたくないと明確に言いきろうではありませんか。この場合の着地点は「永久の決別」以外にないと思うのです。



(2) しかし、黙りこむしかない人もいる。この人たちにどんな知恵と勇気が

C-1

- ◎エッタとはどういう意味だ。差別するのか。しょうちできないぞ。
- ◎やかましいお前こそだまれ。
- ◎これほどの口論になったら、口で相手の失言についてどうこういう段階をこえているのでたぶん手が出てると思う。
- ◎おのりやなに様や。「エッタ」ということばが「人間とちゃう」という意味しってんのんか。
- ◎なぐる。そして、「なに関係あんねん」という。それはどういうことですか。エッタや同和は関係ないでしょう。自分の言っていることにはずかしくないのか。
- ◎体中で怒りを表す。相手にもそれ以上のひどい言葉を返す。プライドを全面にして抗議する。
- ◎「それがどうした」「何関係あるねん」「お前、今何言うかわかつてんのか」と抗議する。
- ◎見下げてモノたれてんか。
- ◎“目には目で”対応。暴力もいとわない。
- ◎やかましい。お前に迷惑かけたんか。ケンカに「同和」も「エッタ」も関係ない。
- ◎相手はその言葉は自分がどうにも言うことができないと思った時などに出る最後の言葉だと思う。自分もそれを言われたら言葉をうしないだまりこむかも。

よくよく考えてみれば、〈C—1〉群に表現されているような鋭い対応が予測されるときどんなに激しい口喧嘩であっても相手はかかる露骨な差別的言辞を実際に吐くでしょうか。おおいに疑問があるところです。部落解放運動がない地域、少数点在で一緒に闘う仲間のいない地域で、しかも、気の弱い人を選んで仕掛けられる差別攻撃ではとしか考えられません。だとすれば、いわゆる闘いの論理で一刀両断するだけで事足りるものではないでしょう。

C—2

- ◎何がエッタが悪いんだい。（と言いながら手を出す） 現在なら相手に説明する。（部落 のことを）
- ◎それで喧嘩に勝ったと思ってるなんか。
- ◎失いたくない友達だとオルグ。そうでない者であれば糾弾！ しばらく。
- ◎エッタとはどんな意味ですか。同和のクセにとはどういうことですか。
- ◎（「エッタ」と言われたとき） 「『ことば』の意味知って言うてんのか」
（「同和のクセに」と言われたとき） 「たしかに『同和対策』は無茶苦茶な面もあるな。でも『同和』ってどういう意味やろな」と逆に聞いてみる。
- ◎相手に「ではあなたは何なのですか」「同じ日本人で私がエッタなら、あなたは何なのですか」ということから問い合わせ直してみる。
- ◎「エッタ」という意味をちゃんと説明して下さい。（どうしてそういう言葉をつかうのかを）
- ◎お前らみたいな奴がいるから差別みたいなくならへんのんじや。
- ◎エッタの意味を説明させる。
- ◎エッタや同和の人間が何で悪い。貴殿は私たちにくらべて、どれだけすぐれているのですか。
- ◎エッタとはだれですか？私には名前があるし、あなたのような人にえらそうに言われる筋合いはありません。そのような言い方しかできないあなたに同情とあわれみを感じます。
- ◎そういう対応しかできないなんてお前もさみしいの。
- ◎たまたま部落に生まれただけなのに。。。。。

〈C—2〉群の中で、少なくとも「エッタとはどんな意味ですか。同和のクセにとはどういうことですか」と返せるまでになるために「黙りこむ」部落民に何が必要なのかを考えておくことも大切なことではないでしょうか。少なくとも、「黙りこむ」しかない人が自ら深い傷を負うことなく、むしろ、心の中で、「そのような言い方しかできないあなたに同情とあわれみを感じています」と相手より高い意識レベルを持つことはそんなに困難なことではないでしょう。かつて「エタ」と呼ばれた人たちの係累であることが何ら恥ずべきことではなく、また、かつて「エタ」と称せられたむかしも今も、われら部落民が周辺の人々から交際・結婚等で忌避されなければならない正当な理由はなにひとつないことを、まず、自らの営みを通して確信することではないでしょうか。人間として尊厳に満ちた研鑽を積み、そこで培われる人格が様々な人生を用意してくれるに違いないからです。

〔D〕 先輩や同僚（同級生）が指4本を突き出して「お前、これやろ」と聞いてきたとき返すことばは

(1) 少なくとも、その場で「黙りこむ」ことだけは避けてほしい

D-1

- ◎指4本を出されても、私は指はみんなそろって10本あります。
- ◎4本をだしたら、それはなに4つか、1、2、3、4の4か、おまえあほか、私もそうや。
- ◎「あんたも『これ』でんがな」と指4本つき出して、「あんたも『肉』食った事あんやろ」と言う。
- ◎“おれエッタや”といって「それがどうしたん」と聞く。
- ◎はいそうですと言って、関係ないという。
- ◎“はい”そうです。自分の生まれた所を誇りに思っています。

〈D-1〉 群の対応は、いずれをとってみても悲しい。「指4本」突き出す陰湿な差別攻撃に屈服しているからです。「ハイ、そうです」と返してなにが「自分の生まれたところを誇り」なのでしょうか。「肉を食べたこと」が部落差別の根源というのですか。「おれ、エッタや」とはどういうつもりなのでしょうか。部落問題のなんたるかに余りにも無知すぎはしませんか。

実際のこの場面に立ち合ったとき、「頭が真っ白になってだまってしまうかもしれない」状態が少なくないのでしょうか。「指4本を出されても私は指はみんなそろって10本あります」と茶化している人もおります。このような陰湿な差別行為には、徹頭徹尾、茶化していくのも有効な手段であるかもしれません。しかし、「茶化す」にはとん知が要るでしょう。また、部落差別問題への深い認識が裏付いてないと続きません。「黙りこむ」ことを回避していくためにも「茶化す」スキルを訓練の中に入れていくことが面白い試みであるかもしれません。とりわけ、先輩に対峙するとき、有効ではないかと思います。

(2) 「何の意味か」と突き返し、職域・地域・近所・グループ間で赤恥をかかせよ

D-2

- ◎もっふんいうてみ！あなたは指4本の意味知っているのか。指4本をさすのは私が四つ足の動物だということだぞ。
- ◎知っていてしているのか。意味が分かっているのかと聞く。
- ◎「そや、それがどうしてん」「そうすることが、おれをどんなに侮辱することかわかつてんのか」
- ◎自分が今何をしているのか分かっているのか。今のしぐさは許せない。なぐる。
- ◎指の意味など、とことん追及する。

- ◎「口でいうよりひどい事だと思う」「だから、なんなんだ」と言って、その先をきく。
- ◎それは何ですか。今ごろそんなことする人はいませんよ。説明して下さい。
- ◎それはなんですか。そんなことを私にいってどうするんですか。
- ◎そやけど。お前それを差別やてわかってしてんねんな。

D-3

- ◎そうや！何か、それがどうしたん？話の前後もないし、突然発言してきたのは、これは、差別発言や！一度、部落について考えたらどうか。
- ◎どういう意味で使っているんですか？ちゃんと説明して下さい。そういう表現をしているあなたの顔は、何よりもおぞましい顔をしています。自分の顔をみてください。私は人間です。
- ◎あなたはかわいそうな人やなといってやる。
- ◎指4本の意味を問い合わせし、障害者や老いていく時に生じる体の不自由さから心的障害の意味は何かということを話していく。
- ◎頭が真っ白になってだまってしまうかもしれない。

〈D-2・3〉群のとつかりは充分です。「自分が今なにをしているのか分かっているのか」「あなたは指4本の意味知っているのか」と問い合わせしながら、しかし、「なぐる」という着地は弱々しいものです。このような差別行為に表向きに賛意を表す人はいないのでありますから、ていねいな対応をすることです。かかる卑しい行為をするものにふさわしいお返しは「赤恥」をかかせること以外にないでしょう。それも、その人が日常もつとも接触のあるところ、例えば、小単位の職域や隣近所、親しいグループに問題を持ちこみ茶化しもいれて余裕をもって問いつめればよいのです。「あなたはかわいそうな人やな」「そういう仕ぐさをしているあなたの顔は、何よりもおぞましい顔をしていますよ。自分の顔を鏡でみてみでは」の段階に到達すればそれで十分でしょう。そのひとは赤恥を再びかきたくなるであろうし、そこに追いつめた被差別の側は、差別の呪縛から解き放たれた自分を発見するに違いありません。

〔E〕 先輩や同僚（同級生）から「お前、ガラが悪いところに住んでいるんやな」となじられたときに返すことばは

(1) 「ガラが良いのか、悪いのか」この無意味なやりとりは無駄

E-1

- ◎ガラが悪い所とは何なのか？昭和天皇は戦争責任もとれないほどガラが悪いが、それと比べたら僕の住んでいる所は心暖かい場所だと思うと反論する。

- ◎住んでるところはガラ悪いかしらんけど、あんた自身の方がもっとガラ悪い。
- ◎そこに住んでるモンみんなガラ悪いんケ?ええモンも悪いモンもどこのムラにもいるわい。
- ◎ガラ悪いところはたくさんあるで。うちの村だけとちがうで。
- ◎まだましや、もっと悪いところは部落外にも多くある。
- ◎ガラが悪くてなにが悪いの。あんたらにべつに関係ないやろ。
- ◎相手にしない。無視する。
- ◎やかましい。もう一回言ってみい。

〈Eー1〉群のやりとりは心に余裕がなく非生産的なやり口ではないかと思うのです。「住んでるところはガラ悪いかしらんけど……」「そこに住んでるものはみんなガラ悪いのか……」「ガラ悪いのはうちの村だけちがう」云々からは、自分の住んでいるところへの愛着も表現されていないし相手の理不尽な言いがかりにも反撃できていないのではないかでしょうか。しょせんは「やかましい。もう一回言うてみ」としてケンカに落着するしかないのです。「ガラが良いのか、悪いのか」を真剣に論じることにどんな意味があるのでしょうか。

(2) 真面目な対応より、徹底的に言葉遊びを楽しむように

Eー2

- ◎地区によってガラが悪い、良いなどあるのか。
- ◎ハイ。ガラのええところってどこや。こっちが聞きたい。
- ◎つまり、部落に住んでること言いたいわけでしょ!部落に限らずガラが悪いところもある。
それは偏見に過ぎないから一言で言わないで欲しい。また、あなたが考えるガラが悪いって何をさすわけ?
- ◎あなたはかわいそうな人やなと言ってやる。
- ◎どういう基準でガラが良い悪いを決めるのですか。本当にあなた自身そこに足を運んだことがあります?ユートピアみたいなとこがこの世にあるのならおしえて下さい。
- ◎どこガラ悪いんで、いっぺんきてみ。
- ◎どこにでも色んな人間はいるからな、あんたの所も対して変わらんのとちがうか。
- ◎別に何もかわったこともないのにと言い返す。
- ◎わしは、ええおもて住んでんや。
- ◎知りもしないくせに何言うてんだ。
- ◎自分が生まれ育った所が一番好き。
- ◎言われても気にしない。ガラが悪いと思われてるかもしれんけど、人にやさしいええとこやで。ー

べん住んでみたら。

◎貴殿達の住んでいる所より人間に愛情がある人達が多くいますよ。

「お前、ガラが悪いとこに住んでいるんやな」との問い合わせの意味するところは、〈E—2〉群の中の「つまり、部落に住んでいることを言いたいわけでしょう」ということなのであります。すなわち、「お前は部落民だ」と言いたいところを持って廻って遠ましに表現しようとしているのです。この類のものにとっては、「部落民云々」さえ言わなければ差別行為として非難（糾弾）されないで済むとの判断があるらしいのです。

思えば、「コワイ」「ガラ悪い」は部落民と部落の枕ことばになってきたものです。われわれが部落民であるとか部落に住んでいるとかについて事改めて討論することもないし論争することもないでしょう。折角、部落の枕ことばが持ち出されたのでありますから、この際、徹底的に「ガラが悪い」をめぐって言葉遊びに徹すれば良いのではないか。

「ガラのええところって、どこや」「どういう基準でガラが良い悪いを決めるんですか」とねちっこく、しつこく問い合わせ返すことです。「わしは、ええおもて住んでるんや」「どこガラ悪いんで。いっぺんきてみ」と余裕を示せばよいのです。偏見は、しょせん、偏見でありボロが出るものです。「自分が生まれ育ったところが一番好き」と言いまくろう。こんなつまらんことをして良い気持ちになっているのかしれないが「あんたはかわいそうやなあ」とも言ってやればよい。この程度の差別行為には、遊び感覚で軽やかに対応するスキルを身につけたいところであります。

〔F〕 友人から「君は部落出身には見えない」と妙な評価をうけたときに返すことばは

(1) この「愚かもの」にサヨナラを！

F—1

◎ですか？見えないですか？

◎それはどう言う意味か。部落出身だとどこがちがうのか。身体に色でも付いているのかおしえてもらいたいものだ。

◎おれはそんなこといわれてもうれしくない。おまえの部落に対するイメージはどんなんや。いっぺんいうてみい。かってに人をきめつけるな。

◎どういう意味、どんな見え方しても自分は部落民やし部落が好きや。

◎見えたあんたはどうするんや。どんなつき合い方するつもりや。

◎「あんたは部落出身に見えるね」と言う言葉で反論する。そこから逆論的として部落とはなにかということをつきつめていき、心の問題を問い合わせ返す。

- ◎あんたこそそんな差別発言するような人には見えなかつたけど。
- ◎同じ人間ですからね。
- ◎どういう意味ですか。部落の人たちは、みんなあなたと何も変わらないです。
- ◎それは差別やで。あんたのイメージしている部落出身とはどういうものですか。
- ◎外見でなんかわかるわけないやろ。もし、部落出身にみえたらどうやねん。

この類の発言者は、いわゆる「愚かもの」であって、お人好しでもあります。最大限の評価をしてみたつもりなのに、いきなり、「それはどう言う意味か。部落出身だとどこがちがうのか。身体に色でも付いているのかおしえてもらいたいものだ」とたたみかけられて、このお人好しの「愚かもの」には返す言葉はないでしょう。「それは差別やで。あんたのイメージしている部落出身とはどういうものですか」と突っこまれれても、唯々、黙り続けるしかないと思います。この人は二度と愚かな発言を繰り返さないけれども、ほとんど生涯を通して部落民に対して心を開くことはないでしょう。お人好しであってもつき合いきれないほどに愚かなこんな類のものと友人関係を続けたくないと考えれば〈F-1〉群の対応で「勝利」のうちにおサラバできるのは確実でありましょう。

(2) この「愚かもの」を親しい友人として歩く人生も

F-2

- ◎“ホンマ”にと聞く。
- ◎ありがとう。
- ◎せやろ。
- ◎ありがとう・・・だけど今の言い方はちょっとおかしいのちがうか。
- ◎あんまりそんなこといわれたことないなー。変な気持ちになるなー。
- ◎よけいなこというな。
- ◎お世辞ととって本気にしない。
- ◎「だからどうしたのか」と言うぐらいで、あとは聞き流してしまうかもしれない。
- ◎「そうや、部落のもんでも上品な人もいるやろ」といい部落問題を議論する。
- ◎どうゆうことから言えるわけ?部落出身でどんな人のことさしてゐるの?私は、部落出身です。もしかしたら、あなたも部落の生まれだったかもしれないし、混血かもしれないのです。偏見で判断すべきじゃないです。

お人好しにとつては部落民の友人に精一杯の評価をしたつもりなのであります。「お世辞ととつて本気にしない」などの対応では困るのであります。「ホンマ!」「ありがとう」と受けとめてもらうことを期待して言ったのであります。このお人好しの周辺には部落民との交際を忌避すること

を常態化してきた現実があり、自らもその現実を否定しきれずにいることと、自らの親友のひとりが部落民であることとの矛盾を解きほぐす鍵が「君は部落出身には見えない」ということにあつたのであります。

もし、部落民の「君」にとってこの「愚かもの」を親しい友として失いたくなければ〈F—2〉群の展開がよいでしょう。「あんまりそんなこといわれたことないなあ。変な気持ちになるなあ」「ありがとう。だけど今の言い方はちょっとおかしいのちがうか」で継いでいけるのでは、と思います。もっとも、「そうや、部落のもんでも上品な人もいるやろ」ではなんの発展も期待できないのですが、「どういうことから言えるわけ？部落出身でどんな人のことさしてゐるの？」と継いでいけば、このお人好しの部落への具体的なイメージがかなり鮮明になってくるかもしれないのです。また、このお人好しが、部落民に「どうあって欲しい」と思ってきたのか、を知ることができれば偏見を克服するきっかけが見つかり友情を豊に育んでいけるのでは、などと期待するのは楽観的にすぎるのでしょうか。

[G] 私が部落の人と結婚したために、兄の縁談に差しつかえたと親からグチられたとき返すことばは

(1) グチる親を突き放しても、そこからは何の展望もひらけない

G—1

- ◎最初からわかっていたはず。それよりも生活して来て迷惑のかかる様な事がありましたか。もっと自信を持って親に説得をしなさい。
- ◎そういう風にしか考えられないなんて、不幸ですね。相手の方はよほど人間の出来た方なんですね。私と相手が結婚するのじゃないのだから。兄には、相手をもっとちゃんと見るべきですよ。兄とその人の問題であって、私との問題ではありません。
- ◎親も兄も、どうして相手の親に部落について話し理解してもらえなかつたのかと逆に言い返す。
- ◎うちはうち。兄は兄。
- ◎親子の縁を切ってくれてもよい。

親は「私」が部落のひとと結婚していることをかくしていたのでしょうか。多分、かくしていたのだと思います。「私」のことで一度は自分を納得させたと思ったのに、他の子どもの縁談にまで影響してきたことに親の悩みは深刻になっているのです。「うちはうち。兄は兄」ではないのではないかでしょうか。まさに、「兄とその人の問題」であるけれども、親の心配を放置してよいものではありません。「親子の縁を切ってくれ」で物ごとがうまく運ぶのなら親としてもとっくの昔にそうしているでしょう。

少なくとも親に心労をわざらわせていることへのねぎらいの言葉が必要ではないでしょうか。そして何よりも、自分たちの結婚生活の状況を報告して親を安心させることに努めることが大切です。

(2) ほんとうに破談の原因是「私」か、兄との率直な意見交換が必要

当事者である兄との確認をぬきにしてあれこれ言うことは許されません。ほんとうに「私」事で兄の縁談がうまく運ばなかつたとすれば、やはり小事で済まされるものではないのです。まず、兄からもよく経緯を聞き、もし、「私」事が原因ならば、かなりの時間をさいて兄と話しこまねばならないでしょう。

G—2

- ◎そんなことを気にする人やつたらはじめからやめといたらええ。
- ◎そんな結婚は最初からダメになる。そんな心の小さい思いやりのない相手はこれから先、一寸したことですぐに駄目になるからよしたほうがよいとつきはなす。
- ◎「その事でダメになる縁談なんかしない方がいいと思うし、グチる親にもそれが差別している事だ！」と強く言い返す。
- ◎それは縁ごとやからしようがない。そんなんやつたらわかれた方がよい。
- ◎もともとその程度の“愛”やつたんやろ。ほんまに好きやつたら、何があつても大丈夫なはず。
- ◎人を差別するような冷たい人と結婚しなくてよかつたじゃないか。
- ◎その程度の人だったってコトだろ。本当に兄のコトを愛していなかつたんだ。

〈G—2〉群の展開はいずれも様々な角度からの意見交換の一つとして話せばよいことあります。「そんなんやつたら別れたほうがよい」との結論を軽々しく言うべきではありません。場合によっては、「私」夫婦が兄の相手方と会い、自分たちの経験を率直に紹介しながら理解を求めていくという誠意も必要ではないでしょうか。

[H] 姑から、「親せきには、あなたが部落出身であることを黙つておいてほしい」と申し入れられた時の対応は

(1) 「断固拒否」型。やさしい人間関係は不要なのか

H—1

- ◎黙ついていもいざれきっとみんな知ることになるのだし、差別される不安はあるが、勇気を持って

最初から自分が部落出身であることを明らかにしたい。

- ◎聞かれたらはっきりいいたい。自分の出身がそんな恥じなものでないし、かくすのはいや。そこから、ゆっくりいろんな話ををしていきたい。
- ◎何で黙ってんとあかんの？遅いか、早いかの違いだけではあるがな。
- ◎絶対にイヤです。かえって後でわかつて色々な事を言わされる事が多いから。
- ◎なぜでしょうか。ちゃんと訳を聞かせて下さい。自分は部落をかくすつもりはありません。
- ◎何でだまつてんの。私の生まれたところは悪いのか。おなじ人間やのにそんなことをいうから、部落の人との差別がなくなるんや。
- ◎今の発言で姑が差別発言したことの理解と、私が精神面で傷つけられたことに対する謝罪を求め、それがかなわなからしたら家出する。
- ◎「部落のことどう考えてはるの？」「いつかは、はっきりすることや」「何でかくしとかんとあかんの？」
- ◎黙っておくことは苦痛（生活していく上で、いろいろな面で）なので、姑の方から言えなければ自分の口から話すと言う。
- ◎自分の言っていることがよくわかっていないのではないか。親として尊敬できません。人間はみな平等が当たり前でしょう。
- ◎姑と縁を切る。つきあいしたくない。
- ◎そんな、かくさんなん事でもあらへん。正直に言うて、わかつてもらうほうがええやん。
- ◎何も言えず、その場から立ち去り自殺したい気持ちになるだろう。
- ◎親せきとのつきあいをやめておいてもいいですか、と姑に言う。
- ◎結婚を許してくれた姑さんであるので話し合う。かくすのはいや。

「なんで黙ってんとあかんのん」「絶対いやです」「今の発言は差別発言や」「姑と縁を切る」等々、ほんとうに力強い言葉が続き、たのもしい限りであります。これ、まさに部落解放運動と「同和」教育の成果に違いありません。「何も言えず、その場から立ち去り自殺したい気持ちになるだろう」などとの問題提起があれば、われら運動体は、ここぞとばかりの糾弾闘争を大々的に展開したであります。

これらの対応が「マユツバモノ」と言うつもりはありませんが、しかし、差別による反対をかいくぐって結婚した人たちの生の声ではないのではないかと疑いをもつのです。「結婚を許してくれた姑さんであるので話し合う。かくすのはいや」という意見がやけに目立って説得力をもつてくるのであります。「結婚を許してくれた」姑さんも、まだ、周辺のかたくなな部落（民）忌避の常態化した風潮に立ち向かう勇気も力量もないのが普通であります。「姑と縁を切る。つきあいしたくない」との対応はいかがなものでしょうか。他人の弱さを自らのものとする生き方の中からしかやさしい人間関係は期待できないのでは、と心配するところであります。

(2) とりあえず黙つておく。この融和主義は排除されるべきではない

H-2

- ◎ハイ、わかりました。
- ◎ハイ。かくしていてもいずれわかるよ。
- ◎黙つておく。
- ◎姑の申し出どおりにすると思う。何の反論もせずに黙っている。
- ◎別にだまっておく必要もないと思うけど、言う必要もないと思う。
- ◎無理に言う必要はありませんが決してはずかしいことではないと思う。
- ◎積極的に言うことはないけれど、なりゆきでは出身を明らかにする事もある。
- ◎自分からしやべる気ないけど、そんな事したって知つてやる人は知つてやるで。（設問が自分にあってはまらないで難しい）
- ◎必要もないとき、いちいち自分は部落出身やけどと断りはせんけどかくす必要どこにもあらへん。
- ◎こと更に姑に反対しない。然し機会を見て自分の正しい思いを言う。
- ◎別に自分の口から言うこともないが、何かのきっかけで差別されたときはいうと思う。差別するような人達でなければ一生言わないかもしれない。
- ◎どうですか？自ら部落出身であることを言う必要もないし、隠す必要もないと思います。日頃つきあっていく中で、言わざるを得ない場合などでは私は、部落出身であることを言います。
- ◎「あえて言う必要も思うが、問われれば自然なものとして部落出身であることは言いますよ。また、相手が差別的な発言した時は、たしなめる発言はします」というようなことを言う。
- ◎私は、いつでも誰にでも部落であるというわけでないし、私が言いたいときに言う。誰かに“言え”だとか“言うな”とかいわれてもこまる。私の意志です。私が部落であったならにか不都合があるのですか？
- ◎黙っている。又言う必要もないと思う。夫が理解していればそれでよい。姑にも、とやかく言われたくない。

部落の完全解放をめざしてきたわれわれは、融和主義を「伸よし路線」として断固、排除することを闘いの重要な柱とすえてきたところであります。「ハイ、わかりました」と姑の申し出どおりにするだけの人も皆無ではありません。しかし、「とりあえずだまっておくが必要なときや差別されたときはいうと思う。差別するような人達でなければ一生言わないかもしれない」とするスタンスの人たちが増えてきたようです。率直に言って、運動や教育の分野の活動家でない人たちに多くみられる特徴があります。

部落（民）忌避の常態化した風潮はこれからもしばらくは根絶される見通しがありません。この根拠のない曖昧模糊たる風潮に立ち向かうのに断固たる信念も態度もあり似合わないのでは

ないかとの疑問がふくらんできました。しなやかに対応するすべを身につけなければとの思いが強まっています。

II 相手があなたを部落民と知らずに差別発言をするケース

(1) 「部落はコワイところ、ガラが悪いところである」と誰とはなしに言われたときの対応は

(1) 「私も部落です」。会話は中斷、気まずさだけが

1-1

- ◎私、部落出身やけど。コワイとかガラ悪いって何を持って言うの？一度私のムラを紹介するから見に来てや。そしたら誤解や偏見はなくなるはず。
- ◎誰とはなしに言われたときは、相手の話を聞いて昔は言えなかつたけど今なら部落民だとと言う。相手は私から遠ざかるでしょう。
- ◎何でそう思ったのか具体的にきく。自分は、部落でうまれ、育つたのだが、どうしてこうもみえ方がちがうのか話をする。
- ◎私も部落です。何でそんなこと言うの。（私の家では母がつねづねから、「何か言われたら『私も部落やで』と言いや」といっていました。）
- ◎そんなことはありませんよ、私もその出身です。私もコワイですか、ガラが悪いですかと聞いて見る。
- ◎部落とはそもそも何なのかを問い合わせる。又、それなりの歴史的経緯を説明する。
- ◎具体的にどんなことかを聞いたあと、村の事を話してみる。
- ◎ええとこやで、親切な人ばっかりやで。こんなええとこはないで。一回住んでみては。
- ◎根拠は？何で？住んだことあるん？足運んだ？どれだけの人（部落）とつきあつたことある？あなたの町はユートピアですか？そんなところに連れて行って下さい。
- ◎おこると思うがとりあえず差別しているとはっきりといって相手に考え方をかえるよう説得する。

「私も部落です。何でそんなこと言うのか」と部落民宣言をした瞬間、実に気まずい空気がその場を席巻し誰もが口を閉ざしてしまうことでしょう。その場でしゃべるのは宣言をした人だけになってしまいます。「歴史的経緯を説明」しても誰れの耳にも入らないし、「ええとこやで、親切な人ばっかりやで」「一度、ムラに来てみるか」と誘っても生返事しかかえってこないでしょう。会話に参加していた人々は、「部落云々」と直接発言した人の責任とばかりに一刻を競

うように退散してしまうのがおちでしょう。〈I-1〉群の対応のどれ一つをとっても理不尽なものはありません。ただ、対話の中斷とあと味の悪さだけしか残らないのです。

I-2

◎すべての質問で相手が知らなければあえてその話しさしない。話題を変えると思う。自分の中で何一つ変わっている所はないと信じているので弁解がましい言葉や言いわけと思える言動はとりたくない。悪く思いたい人には勝手に思わせておけばいい。どうせその程度の人間とこちらから見下してしまえば良い。

◎知らない顔をします。

◎話を流す。

◎黙っている。（言うてくれれば言い返すが）

かと言って〈I-2〉群の対応からは何も生まれません。「どうせ、その程度の人間か」と見下してしまうだけで精一杯でしょう。部落外に点在して住んでいる部落出身者の身の処し方のほとんどがこの類型にあてはまるのではないでしょうか。

（2）根掘り葉掘りに会話を楽しんで最後まで名乗らんのもまた良しで

I-3

◎「なんでやと聞いて見る」「そんなことはないと違う」と反論する。

◎「そんなことないよ」とは言うが、それ以上の話しさしない。

◎見たの？何かあったの？ときき返し反論する。

◎どういう意味ですか？くわしく話して下さいと言う。

◎そんな発言をするに至った経過をきき、自分なりにその人に誠意をもって意見する。

◎ほんまにコワイんでつか、どんなことをガラ悪いといいまんのや？どこでも一部にはそんなもんはいるけどみんながそうやというのはおかしいだっせ。

◎コワイ、ガラが悪いと一定の地域をさして言うことは差別ですよ。わけもわからず話すことははずかしい人間のすることだ。

◎「どこの村にも良い人も悪い人もいる」「部落やからガラが悪い」という考え方はまちっている」と言い返す。

◎なんでそう思うかきく。何かあったなんか、よっぽど悪い人に出会ったんちやうか。

◎自分自身が行って、自分の目で見てからの事なのか。その他の場所とかと同じだ！全然変わりはないと言い返す。

◎オレ、部落のことよう知ってんねんけど、たしかにコワイ人もいるし、言葉も上品じやないかも知らんど、あんたとこよりちょっとはあったかいんちやうやろか。

◎そんなんわからへん。かってにきめつけんのんはおかしんとちゃうという。

おかしな話をするようですが、こんな会話に出くわす機会はありそうでなかなかないのです。部落（民）を忌避するときに唯一その根拠のように語られるものであります。しかし、その「コワイ」「ガラが悪い」の具体的立証となると千差万別で定説はないですから面白いのです。

「部落はコワイ、ガラが悪い」というのが偏見であり、だから差別だと断定し、問責したところで、そこから導かれる結果は「うかつに言わない」ということしか結果しないから困るのであります。誰から聞いたのか、主体的にどう把えてきたのかと追及してみても曖昧なままで済ませてしまいます。

こんな得難い機会にめぐりあえば、余裕をもって会話を楽しめれば良いのです。できうるならば最後の最後まで、部落民宣言をしないで済ましたいものです。〈I—3〉群の対応から始めて十分ではないでしょうか。間違った情報や事実関係の誇張が、いかなる偏見となっているのかの根っこを知っていくのは、反差別のとりくみの基本でもあります。また、「お前の発言は差別だ（糾弾対象だ）」という切り札をださずにどう偏見とからみ合えるのか、は自力解決・自主解放のパロメーターにもなるでしょう。

[J] 「部落はヤクザが多い」と知った風なことを言われたときはどう返しますか

(1) 知つた風な対応はかえって、偏見を煽るだけ

J—1

- ◎たしかに多いですね。しかし、なぜ多いのか考えたことがありますか。
- ◎かって差別にまけて、そんな道にいった者もいると思うけど、決して多いとはいえないんでー。
- ◎昔は地区の人達が仕事がなく、しかたなくなってしまった人達がいた為ですよ。現在ではそんなこともなくなりました。
- ◎何故ヤクザが多いのか、社会的に虐げられたものの歩む道が人間を如何に悲惨な状況に追い込んでゆくかを問い合わせます。

J—2

- ◎多いらしいなあと言う。
- ◎確かにそんな人もいるから黙っている。
- ◎怖そうな人はいるが、ヤクザが多いことはない。
- ◎そうかも知れんと同調する。そやけども一般の人達もたくさんいると言う。

- ◎入り人が多い。
- ◎部落のヤクザは気ちっちやい。東京のヤクザの方がこわい。
- ◎部落のヤクザはちっちやいイレズミでも色いれてない。してる。
- ◎そういうことをしっているおまえもヤクザか？

「部落はヤクザが多い」という風潮は別段統計に基づいたものでなく、「部落はコワイ、ガラが悪い」の類とダブルものです。「部落はヤクザが多い」と誰かが知った風に言ったからと言って、こちら側も知った風に対応する必要はどこにもないでしょう。分からぬものは分からぬでよいではありませんか。〈J-1〉群の対応は偏見に念押ししているようなもので「入り人に多い」などは正真正銘の偏見であり、差別です。また、〈J-2〉群の真面目な対応も的をはずしていると言わねばなりません。教育や就職の機会均等に制約を受けている層やドロップアウトしたものがヤクザの世界に入るケースが多いのは確かでありますし、部落も、かつては、今よりも多かったでしょう。しかし、ヤクザの世界に身を投じる部落民の割合はいつの時代でも極く少数であり、部落に起居していてヤクザ稼業は成り立たないものです。部落にヤクザはほとんどいないのであります。

(2) 左翼の闘士をかくまつたことはある。しかし、部落はヤクザには冷淡だつた

J-3

- ◎オレつき合い多いからよう知ってるけど部落の人って案外おとなしい人が多いんで。ヤクザっぽい人が目立つだけで、あんたどこも変わらんの違うか？実際オレも住居してるけど。
- ◎ヤクザが多いと悪いのか？数は？そりゃ人間やからヤクザもいろいろなところに住んでい るわな？「らしい」ではなく、断定できるものがないのならはじかくだけやでー。
- ◎なんでそんなこと知ってるのん？誰に聞いたん？あんたが調べたんか？ヤクザと違う（部落の）人には関係ないことやろ。
- ◎ヤクザなんていろんなところにおるよ。いちがいにいえないんじゃない。
- ◎かぞえたんですかとわらいとばしてばかにする。
- ◎なぜそう思うのか、実際に見たことがあるのか、他にどう感じるのか聞く。
- ◎部落じゃなくったって、そこら辺じゅうにそんな奴らたくさん居るだろ。「部落は」なんて特定するな。
- ◎偏見だという。
- ◎ヤクザが多いというのは、どういうことをさして言えるのですか。良く知っている知り合いがいるのですか。

J—4

- ◎私、部落出身やけど、ヤクザが多いって調査したわけ？とり方によれば差別発言になるかもしれないから、あなた。考え方を説明して私を納得させて下さい。
- ◎何パーセントいるんですか。それは一般地区にくらべてどうなんですか。それはなんでそうなんですか。ちなみに私は部落民ですがヤクザではないと思っていますが。
- ◎あんたは、何言いたいねん！どこにでもヤクザは居るやんか、部落やから多いなんて差別やで！
- ◎そんのは一部の人でみんなが違う。
- ◎集団でみんなが行くからやろ。べつにヤクザが多いのとちがう。仕事がなかつたりして遊んでいる人が多いからやろ。
- ◎部落の人の仕事が土方をしている人が多いからですか？言葉があだっぽいからですか。
- ◎私も部落です。そんなことないよ。
- ◎何も知らずに部落はということは差別だ。何をもってそのように人を傷つけることを平氣で言うのか。
- ◎ヤクザは一般にもいるがな。部落に多いと言うが、多い少ないの問題ではないのではと言う。

戦前、左翼の運動への弾圧が苛酷を極めた頃、多くの闘士が部落に身をかくまわれていました。逆に、ヤクザになったわが子が自宅に立ち寄っても、入れ墨をした身体を公衆浴場で晒すことを親やきょうだいは許さなかったものです。同和対策の利権がらみで部落に舞いもどり、肩で風をきってヤクザがあるいている光景などは最近の流行に過ぎないのであります。誰もが高校や大学に行く機会がつくられ、部落民だということで就職を断る企業がほとんどなくなって、部落の青年がヤクザに身を投じるケースが極めて少なくなりました。しかも、いつの時代でもヤクザは極く少数のものの世界にすぎなかつたし、部落にヤクザはほとんどいないのです。〈J—3〉群、〈J—4〉群のいずれの展開からでも「部落はヤクザが多い」という嘘を否定し、口論に勝利しなければ気がすまないところではないでしょうか。

[K] 「あそこは、部落だから関わりをもたんほうがよい」という忠告を受けたときに返すことばは

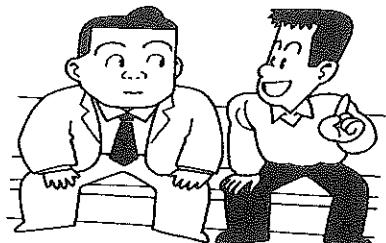
(1) 部落民宣言で対話中斷、交際終結。余裕をもつて気ながな対応を

K—1

- ◎忠告には感謝するけどもう関わってしもとるんでどないもできんわ。
- ◎自分は部落と名乗り、あんたは今まで私本人をみてつきあいをしてたんやろ、部落出身やからとつて何か変わるのが聞く。

- ◎そしたら、おれとも関わらない方がいいよ。
- ◎あなたは関わってなにかあったんですか。部落には悪人しか住んでないんですか。もし、大阪の人と関わらんとき！と言ったらすべての大坂の人と関わらへんのですか？部落の中に住んでいる人の顔は無いんですか？おおきなお世話。
- ◎どうして？私部落出身やけど。そのわけを説明して下さい。私はここで部落出身を打ち明けたことあなたは私と関わらないんですか？
- ◎理由を聞く。そのうえで、自分は部落出身だという。私にもそう思うのかと聞く。
- ◎あなたとはつきあえない。私も部落民だから、もうちょっと視野を広げたほうがいいですよ、と言う。
- ◎あんたと関わりをもつ方がずっとといらん。

こんなことを口走る人は軽率な人間に違いないのです。交際がなくなったとしても部落の側は痛くもかゆくもないと思います。「部落とかかわりをもたないほうがいい」と思っている人も少なくないのが事実であります。「私も部落民だからあなたとつき合えない」となるとかなり多くの人の交際の途を断たねばなりません。「もうちょっと視野を広げたほうがいい」のはどちらのか熟考を要するところです。



K-2

- ◎仲よかつたら、一般も部落も関係ないんだから。。。。。
- ◎そんな事関係ない。
- ◎そうかな～。
- ◎何も気にしない。
- ◎話を流す。
- ◎部落でも部落でなくとも関係ない。

K-3

- ◎なぜ、関わりをもってはいけないのか。なにか不都合があるのか。まちがってますよ。
- ◎部落の人間と関わりを持って何かイヤなことがあったんですか？くわしく説明を求める。（具体的に）
- ◎何かあなたに不都合なことがあったのかという事から話をはじめ、そこから、人間性の問題を追及していく。
- ◎でーで？何しやったんな、どういうことで？どういう意味で？
- ◎なぜかその真意を聞くためにその人とよく話し合う。

- ◎部落やいうてこだわる方がおかしいのとちやうか。
- ◎なんで？人の関係のことには地域は関係ないんとちがう？私の人間関係にいちいち口ださんといいて。
- ◎自分が、交友関係をえらぶし、何故そのようなことをいうのか聞く。
- ◎なぜ部落と関わりをもつたらあかんのかと反論する。部落問題の理解度をそれとなしに聞いて見る。
- ◎なんで関わったらあかんの？私には別に悪いとは思わない。
- ◎人も町もどこでも全く同じ。そういうふうに思っているあなたこそ人間的に悪い。関わりたくないわ。

唐突に言われた場合、一瞬、うろたえるかもしれません。その際は〈K—2〉群の対応で十分ではないでしょうか。その場で即時に聞きたださなくとも相手の意図ははっきりしているのであります。その場は聞き流して、じっくり作戦を練ってから「あのとき小耳にはさんだ話だけれどもどういうこと？」と改めて対応する方が賢明かもしれません。もちろん、〈K—3〉群の対応でおしゃべりを余裕をもって楽しめれば多くの収穫があるのであれば、と思うのですが。

[L] 友人たちの間で、結婚についての話がはずんだとき「部落の人との結婚だけはイヤや」という人が少なくない。あなたならどうしますか

(1) 「べつに部落と結婚するわけでもなし」。核心は、なぜ、結婚するの？

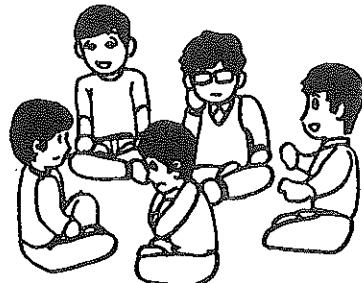
L—1

- ◎理由を聞く。自分は部落出身であることをいって、結婚は個人をみるとあかんでという。
- ◎いらんと思っている人をむりに結婚させるわけにはいかない。そんな人はこっちから遠慮するわ、と言う。
- ◎部落の人らも同じ人間やろ。俺はそんなこというお前らとは結婚したくないわ。
- ◎どうしてイヤなのか聞いてから話ををする。
- ◎何故にイヤやと聞いてみて同和問題の正しい理解について話し合う。然し通婚だけが解放ではないのでいろいろの面より話をして部落問題の全般にわたっての正しい理解を求める。
- ◎その理由を聞いてから自分が部落出身であることを打ち明ける。そして、その反応をみて、誤解や偏見を直させる。
- ◎社会環境の中で、部落のおかれた位置をよく知っているが故に避けていくこともある。そこから、人とは何かをじっくりと話していきたい。

われわれはどうして「部落の人との」というフレーズにこだわってしまうのでしょうか。ここが問題です。相手のホンネを聞きたいとの思いがあって、自らに嘘は許されないとばかりに早々

と部落民宣言をしてしまいます。残念なことですが、この宣言をもってホンネの会話は終了となるようです。あとは言い訳やタテマエで流れるしかないことをなんとしても分かり合う必要があります。

その場の友人間の話の核心は“結婚”であります。「なぜ、結婚するのか」「結婚について基本的にどう考えていくのか」が話題のポイントではなかったのですか。誰かが「部落の人との結婚だけはイヤや」と言っただけで、われわれは話題の中心から離れて「部落云々」にすべての関心を移してしまうのです。



L-2

- ◎なぜでしょうか。ふしぎですね。大事なのは相手自身ではないでしょうか。
- ◎なんで?出身とか気にもしやあないと思うけど。好きになった本人の方が大事やし、出身とか別にこだわるつもりない。
- ◎差別やで!部落であろうがなかろうがお互いがすきやったら結婚したらええやんか。
- ◎縁あつたらしやーないんちゃうん。
- ◎結婚するいうたら人物をみて決めるもんちゃうの。
- ◎あんたが世界一好きになった人が部落の人やっていうことだけで結婚やめるんやつたらあんたは一生幸せになれへんと思う、と友達にいうと思う。
- ◎いい男なら部落でもどこでもいいとわらいとばして相手につけいるスキをあたえなくする。
- ◎お前は恋愛するときいちいち身元調査するのか。相手の人柄をみるのと違うのか。
- ◎別に部落と結婚するんとちがうんやからええやん。好きな人は好き、イヤな人はイヤでええんちゃう。それは個人のレベルやと思う。そんな疲れることできひん。あんたつかれへん?
- ◎何でイヤなのか聞く。人間を差別する自分の心をみにくくとは思いませんか?
- ◎部落の人だから悪いと思いません。それよりも、本当に結婚をしても良い人間かどうか自分自身で考えてはどうか。
- ◎そんな人も多いけど結婚では本人どうしの気持ちが一番大事とちがうか。
- ◎その人の人間性が問題と違うのか。そんな人権意識はどうする。
- ◎部落の人と結婚すんのいらんて、もし、めっちゃ好きになった人ができるてその人が部落ったらどうすんねん。そんな理由であきらめんのか。

「部落の人だけはイヤや」というのは「部落の人以外なら誰でも辛抱する」と同じ意味ではないのですか。〈L-2〉群の中の「別に部落と結婚するんとちがうんやからええやん。好きな人は好き、イヤな人はイヤでええんちゃう。それは個人のレベルやと思う」ということで一件落着

にしたいところであります。話題を本来の結婚の意義や思いに戻すことによって「部落の人との結婚だけはイヤや」という理不尽な感性を孤立させていけるのではないかでしょうか。

〔M〕 「同和地区で交通事故を起こしたら大変なことになる」との話を耳にしたときに返すことばは

(1) どこでも同じこと。保険会社と弁護士の対応で処理

M-1

- ◎どこでそんことを聞いたんですか。“大変な目にあう”とはどんなことですか。見たことあるんですか。事故はどこで起こしても大変だと思いますけど。
- ◎「どこで聞いたのか」「あんた自身体験したのか」と問う。もし、「体験したとしても、それは個人と個人の問題で部落云々は関係ない」と返す。
- ◎先入観で物事を決めつけているのではないですか。本人同士の話し合いが一番大切ではないですか。そんな体験でもされたのですか？
- ◎よく聞くが、実際保険屋来て話しまとまる。
- ◎大変で、ころされるんですか。
- ◎交通事故は人間相手だからどこでも大変さは同じだと思う。同和地区だから大変だという決めつけはよくないと話す。
- ◎どこでもだれでも大変である。弁護士さんをとおして話をすべきと言う。
- ◎今までよく聞くけど、そんな事はない。
- ◎事故なんかどこでおこしてもいっしょやないかな？自分が事故起こしたら相手が誰であってもやっぱり気をつかう。
- ◎どう大変なのか聞いてみる。そして自分が部落出身であることを打ち明け、誤解と偏見を直させる。
- ◎部落をなんでそんな風に悪く言うのや。
- ◎起こしたことに対する責任をとるのがあたりまえ。
- ◎自分で事故をおこしたとき、免許証の交換をしたとき相手が「上但馬」とみたときビクついてた。しかしなにもなかつた体験を話す。
- ◎それを利用する一般地区の者の方がタチが悪い。

M-2

- ◎関係ない。
- ◎何とも言えない。
- ◎そうかも。

- ◎ええても、わるても事情によっては怖い。
- ◎ヤクザよりましや。
- ◎自分が交通事故に会わねばわからないという。然し注意せねばと思いを新たにする。
- ◎知らんかったと言う。
- ◎何も言えないと思う。

さすがに交通戦争の時代の申し子であります。「事故なんかどこでおこしてもいつしょやないかな?自分が事故起したら相手が誰であってもやっぱり気をつかう」「そんな話をよく聞くが、実際保険屋来て話はまとまる」等々、経験に基づいた話でケリが付いています。「どこかで聞いたのか」「あんた自身が経験したのか」と聞くのも悪いことではありません。しかし、部落民宣言も「差別」云々の展開も少数です。これは交通事故の実例が周辺で多く発生し、基本的な処理方法が確立して普遍化していることの反映であって、偏見が幅をきかず余地がなくなっていることを証明しているのではないでしょうか。〈M-2〉のごとき弱々しい、なき対応で逃げをうつ場面では、断じてありません。

[N] 上司から「同和地区は気をつけろ」とか「同和地区にセールスに行くな」と言わされたときの対応は

(1) 月賦滞納の元凶は厳しいノルマ。上司が部落への偏見で責任回避を

N-1

- ◎どんな事情でいけないですか?あまり決めつけない方がよいのではないか。
- ◎「同和地区」はどんなところですか。そんなに危ない所ですか。
- ◎何故ですか。会社は利益を大切にしてるのだったら、どこへでもセールスに行くべきではないですか。
- ◎世の中にはいろいろ気をつけるところが多いんですね。何故そこまで過剰に反応するんですか?売上をのばすことに場所を選べるほど、きような仕事ができるんですね。実際にやってみなければ判断できません。
- ◎なぜ気をつけるのか、セールスに行っては行けないのか上司の思いを聞く上司が差別していたら部下の教育にはよくないのではないかと訴える。
- ◎他のところと同じように仕事して、上司に他と同じところと認識させる。
- ◎もうからへんど、あこいくなここいくないうてたら。
- ◎いったい何に気をつけるのでしょうか。仕事をする上でおかしいですね。
- ◎上司の上の者に言う。

- ◎何も気にしてない。同和地区の方がよく買ってくれるけど。
- ◎普通の所よりも話がまとまりやすい。
- ◎部落の方がよく売れるで、単純やから。布団でもワタ入ってなくともこうてくれやるで。
- ◎同和地区の方が気持ちが単純でだまされやすいからよう売れるんとちゃう。

N-2

- ◎そういうことでは国際化時代に商売はできない。自分も部落出身だし部落に友人も多い。
- ◎自分が部落民であることを相手に告げ、上司の発言がまちがいであると指摘する。
- ◎上司の同和問題の無理解さに怒りを持つ。
- ◎そんな事言う会社はやめる。

N-3

- ◎仕事で上司の命令ならばそのとおりにする。
- ◎社会の厳しさ、上司からの命令つらいですネ。不景氣で就職先のない時、部落民であることは採用する時にわかっているはずだ。
- ◎人間関係大切にしていく。
- ◎仕事がらみになると実際問題として非常に難しいが「何で」くらいは上司に聞いてみたい。
- ◎上司だから正直ちょっとちゅうちょするかもしれないけど、勇気をもって同和地区は上司が思っている様なところではないし、あなたは立派な差別者ですときっぱり言えたらいいなあ。でも不安。

月賦販売の会社でよく起こる差別事象です。営業所ごとにノルマが課せられ、そのノルマは当然、セールスの上にかぶさってきます。〈N-1〉群にあるように、内職の盛んな部落で商談がまとまり易いのです。内職の仕事をしながらセールスの売り込みにつき合ってくれ、決してだまされ易いわけではないが無理を聞いてくれるのです。しかし、人々、必要から生じた契約ではなく、セールスの口実にひきこまれての衝動買いも少なくないのであります。支払い時期になって資金不足が明かになり、滞納という結果となるのです。月賦販売会社ではセールスと集金は別々の対応であり、このようなトラブルが派生しやすいと言われています。



設問が、上記のような会社システムを特定していないので意見を寄してくれた人たちも「そんな会社（上司）があるのかな」と不思議に思っているふしがうかがえ恐縮の至りであります。従って、〈N-2〉 〈N-3〉 群の意見はどうこうのコメントをしないことにします。ただ、このようなシステムの会社では、月間半ばの頃に営業所のノルマ達成が厳しいとなれば契約の本数を揃えるためにどんな契約でもとつてこいとセールスの尻をたたくようであります。月賦の集金率

が悪くなれば、上司はその責任をセールスにかぶせて、「どこそこへ行くな」と説教するというのですからたまらないのです。

〔O〕 同僚から「部落問題について下手なこと言うたら大変なことになる」との忠告をうけたときどう対応しますか

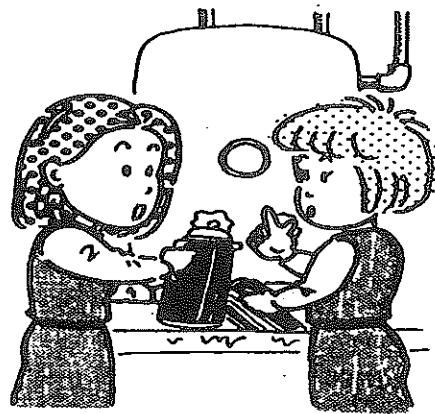
(1) 怒りと部落民宣言の先行で、周辺は再び貝のように口を閉ざす

O-1

- ◎何を言おうとまちがってたら怒られるで。それが差別発言やつたらなおさらや。
- ◎同和地域は関係ない。どこでも相手のこと見てしゃべればなにも問題ない。
- ◎それは部落問題だけではなくて、他の問題とか、その辺の人にでもケンカ売るようなこというたら誰でも怒るで。
- ◎部落問題についての情報交換は大切であると思うけど自分のイヤな事を言われるとおこったりするのはみんないっしょだと思う。考え方に対しては考え直すべきだと思う。
- ◎「あんたはもう十分下手なことを言っています。これから、あんたをその大変な目に合わせてあげましょう。あなたのにある差別の芽をつみとるためのものだから少々大変でもがんばりましょう」と言って解放同盟に連絡する。
- ◎大変なことは糾弾のこと？私も解放運動をしていますとはっきりいう。
- ◎自分が部落出身であることを告げるとともに「お前そういうふうに思っているのか」「実際に自分で経験したんか」「言わんなわからんということもあるやろ」「しかし、その中 身が問題とちがうか」等のことを言う。
- ◎いかりを持つと同時に同僚の部落問題の理解度を詰問する。
- ◎下手なことの内容を聞く。そして、自分が部落出身であることを打ち明ける。生い立ちや歴史など一緒に勉強していこうと言う。一生付き合って行く同僚なので地道に説明していく。
- ◎部落問題について勉強もしないまま、今まで聞いてきたことだけを信じているから何も言えないのではないか。もっと、勉強するように話す。
- ◎お前は一回大変な目に合つたらいいんじや。
- ◎お前らもっと勉強しろよ。

この一連の設問に、回答で協力してくれたのは圧倒的に若い人たちが多かったようです。それだけに考えて欲しいのであります。〈O-1〉群の意見のほとんどは、勇ましいものではあるけれども的はずれだと言いきっておきたいのです。「あんたはもう十分下手なことを言うてる。これから、あんたをその大変な目に合わせてあげましょう」と言って解放同盟に連絡するというの

です。さすれば「あなたの中にある差別の芽をつみとれる」との仰せです。確かに、この同僚の



忠告は、トンマな、うさんくさい忠告ではあります。しかし、少なくとも同僚は好意の一端として示したのです。運動と教育に手厚くくるまわれて育った若者たちにとって「なんという差別発言を」という世界であろうけれども現実はこのあたりの水準にあるのです。〈O-1〉群のような対応では人は変わるものではありません。

O-2

- ◎「大変ってどうなるの」と聞いて、自分の発言に責任ぐらい持てると言う。自分の発言で人のことをキズつけてしまって抗議されたのなら、自分のその時の素直な気持ちを言って自分に非があるならば謝る。
- ◎「下手なことって何?」「あんた自身、どう考えてるの?」
- ◎そんなこと言うことが大変やと忠告する。

〈O-2〉群の一つの意見を見つけホッと救われた思いがしました。「大変ってどうなるの」と聞いて、「自分は自分の発言の責任ぐらいはもてる」と言う。「自分の発言で人のことをキズつけてしまって抗議されたのなら、自分のその時の素直な気持ちを言って自分に非があるならば謝る」というものです。自らの弱さを晒し、互いの弱さや不十分さを許し合いながら変革していくことを求める態度を高く評価したい。「下手なことを言うて」大変な目に合わすのではなく、「下手なこと言うて」そこを基点として新たな会話が始まるという型がほしいのであります。

〔P〕 「部落は税金を払っていないらしい」とか「部落の家賃はタダ同様」という噂が流されたときに返すことばは

(1) 部落も平等に税金を払っている。同和対策としての減免措置は少しだけ

P-1

- ◎あたりまえだ。
- ◎税金も安ければいい。家賃も安ければいいのではないか。なぜそう思えないのか理由を聞く。
- ◎おれは部落民や税金とられてんとー。家賃はタダとちがう。安いか高いかしらん。安いことがうら

やましいんやつたらお前も住んだらええがな。

- ◎部落の人でもサラリーマンは税金納めてるで。自営業者には言われているような問題もあるが、徐々にかわってきてるよ。家賃も安いのは事実やが、今だんだんかわってきてる。
- ◎噂話とちがうの？確かめた？何で、そんな家賃になったか理由しってんのん？
- ◎税金なんか払わへんなら住んでられへんで。あんたが調べたんか？もっと勉強した方がいいんとちがう？
- ◎税金は払ってるし、家賃も払ってる。差別歴史の中でできた法で税金は多少免除されているのは事実。その法がもうすぐ切れ、現在、部落解放運動も転換期をむかえていてしんどいことを訴える。そして、共に勉強するように巻き込む。
- ◎税金は払っている（優遇措置はある）。家賃が安いのは本当。
- ◎払っているものは払っている。ただ部落差別によって土地の評価が低いから当然税金は安くなる。
- ◎あんたら差別してきたからやろ。今までの差別ってきて仕事もなくなつて仕事もできんようになつてるから国が、保証してくれるねやろ。でないと私らもかってにできんやろ。
- ◎その根拠を問い合わせる。その為には自分たちの部落民としての誇りをもった態度を示して、相手に本当のことを理解してもらうよう話し合っていく。
- ◎たしかにそういう人もいるやろけど、それはどこでも同じとちやうかな。大多数の人はそんなことないんちやう。うらやましかつたら、いろんな運動してあんたらも勝ちとつたらえんちやうかな、何もしやんとうらやましがつたらあかんわ。
- ◎税金はとれる大きな企業からもっととればいい。家賃はタダではないし新しい住宅は少ない。

もともと税の不平等感はサラリーマンに根強くあります。賃金が支払われるときに有無を言わせず税が引かれていて、必要経費などほとんど認められてこなかつたからです。俗に、「十、五、三、一（とう、ご、さん、ぴん）」という言葉があります。税務署は、サラリーマンの所得は十割すべてを捕捉しているけれども事業者の場合はその五割、農業や零細な企業では約三割、医師優遇税制のもとでの医者の場合は実際の所得の約一割しか課税対象として捕捉できていないというのがほぼ常識となつてきました。これまで、所得税や社会保険を天引きされる安定した事業所で勤務する人が少なく、生業に近い零細な事業者の多かつた部落が「税をはらつていないので」と、色めがねで見られてきた本当の理由はここにあります。しかし、最近では、部落産業がことごとく崩壊の過程に入り、部落の主要な仕事はサラリーマン等勤労者となつてることもあって、税が賃金の中から天引きされているのは言うまでもないことです。「部落は税金を払っていない」などの根拠はありません。

もっとも、部落外の人々が関心をもつてている同和対策としての減免措置のあるのは事実であります。

県税の主なものとしては、不動産取得税があります。部落差別によって土地等不動産所有が相対的に少ないことを根拠に持家購入で30%、土地購入で20%~100%の減免措置がなされ

ています。また、これまで部落産業育成の一環としてあった事業税の減免措置は'97年度から廃止になりました。

市町村税の主な減免措置は、家や土地に係わる固定資産税です。部落差別が部落民のなけなしの財産の資産価値をも減少させていることに鑑みての措置であります。市町村によって20%~50%の減免措置がなされています。それぞれ、しかるべき根拠のあるものです

(2) 元来、同和向け公営住宅を第二種公営住宅に限ってきた矛盾

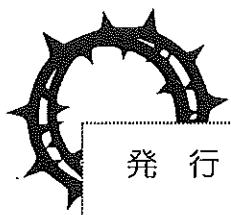
公営住宅法が改正されるまでの公営住宅には、第一種（収入分位17~33%）と第二種（収入分位17%以下）がありました。同和対策は第二種に限られて措置されてきた経緯があります。ちなみに、今日の時点で収入分位17%以下というのは四人世帯で年間の粗収入が450万~460万円以下です。

'69年に同和対策事業特別措置法が出発したその頃、職業選択の自由に関わって部落民はかなりの制約をうけていました。周辺と比較して貧しかったのは事実です。従って、部落の賃貸住宅の家賃も低廉でありました。だから同和向け公営住宅の家賃は政策的に減免されてきました。その流れは、他の公的住宅とて同じであります。同和向けだけに特別なものではありません。

しかし、最近、同和向け公営住宅の建替がすすんできました。運動側の働きかけもあって住宅の質は飛躍的に向上しています。その設定家賃が周辺の民間賃貸住宅と較べてあまりにも安きに過ぎるとの批判があるのは確かなところであります。'97年5月に国は公営住宅法を改訂しました。第一種と第二種の区分をはずし、収入分位25%（四人世帯で510万円）以下を新たに公営住宅の「原則階層」にするというのです。さらに、市町村が部落の歴史性や社会性に配意し、一般財源を導入して政策的に家賃を減免する道を閉ざしてしまいました。現行の同和対策としての家賃制度を、国の意図するように、一般対策と同じ水準にひきあげるのに7年の調整期間が設けられています。しかし、同和向け公営住宅の家賃をめぐる部落内外の受けとめ方の違いは、かなりのながき期間、ひきずつっていくのではないかでしょうか。

（本稿は、1997年9月6、7日に開催した第24回奈良県部落解放研究集会第2分科会「反差別・人間解放のムラづくり」で山下力委員長が基調報告したものです。）





発行 部落解放同盟奈良県連合会（委員長 山下 力）

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL 07443-3-8585

FAX 07443-2-8833

